

一字書課題 (8月22日締切)

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券の余白に「二字書」と記入

樓

条幅随意参考

宗靡尋容像

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。



高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(8月22日締切) 出品料440円

始平公造像記

1、第一回
字句「夫平」



2、形式「半紙タテ使用。左余白に「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観「今回から、「龍門二十品」を課題とします。二十品の内、四品取り上げます。まず最初に「始平公造像記」です。

龍門石窟は、河南省の古都・洛陽の南郊十四km程の処にあります。大小多数の石窟群は、西南から北東へと流れる伊水を挟み、その両岸に対峙する石灰岩の岩山に掘り抜かれている。

この始平公造像記は、龍門造像記としては珍しい陽刻である。また、この仏龕は、洞窟の入口からもっとも近いところに造られており、文字は肉太であるが、鈍重な感じはなく、むしろ厳しさがある。始平公造像記の点画は太く底辺をひろくして、一字の輪郭を三角形に収め、安定させている。

4、各字のポイント

夫 起筆は四十五度の角度で入筆し、横画一画目は短く、二画目は長くし、横二画は少し反らせ気味。脚を大きくひらき、結体は三角形に構える。

平 一画目は短く反り気味。収筆は右上に。終画の縦画は中心に長く。四画目の横画も長くするが、縦画からすると左側長く、右側は短い。収筆では、しっかり押さえてから下に引き抜く。

条幅部漢字課題参考

(八月二十二日締切)

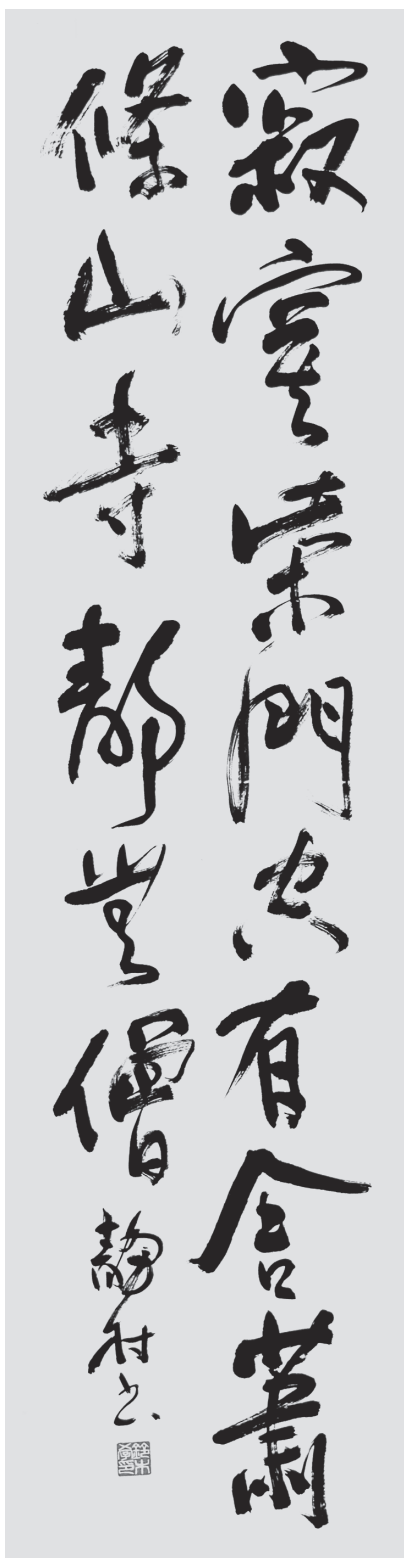
A
高橋香樹会長書

寂寞柴門空有舍 蕭條山寺靜無僧 (耶律楚材)
寂寞たる柴門空しく舍有り、蕭條たる山寺靜かに僧無し。



B
鈴木静村先生書

今回は、連綿線なしで構成してみた。但し、次字への意連綿は意識をしています。「ウ冠」が二字、「穴冠」が一字ある為、冠に変化を試みた。一行目前半五字は草書で、後半三字は行書とし、二行目は逆に、前半三字は行書で、後半三字を草書としてみた。墨継ぎは「有」と「寺」。



もつと字典での調べを崩し、点画の組み合わせ等で疑問があった場合、必ず字典で、これが鉄則。寂 行書体。寞 草書崩し方確実に。柴 此字典で確かめを。舍 左払い米芾調。蕭 筆順 中央タテ画から左へ、順次右へと。山 秋草道人調。寺 筆順はタテ、ヨコ、ヨコ古典にも多い。静 墨字継ぎ。無 崩しよく覚えるように。僧 旁「甬」内を点二つにした異体。訳…ひっそりとした柴の門の奥に静かな家がある。ものさびしい山にひっそりとした寺があって僧は誰一人としていない。

予告 昇試第一部漢字 (九月二十二日締切)

三山海外祥煙繞

五色雲中瑞氣廻 (廖道南)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考

(八月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

夏衣かたへすゞしくなりぬ夜やふけぬらん行きあひの空(新古今和歌集 前大僧正慈円)
なつこ路もかたへ春ゝ志久那利ぬ奈り夜や婦介ぬらむ遊びあひの空

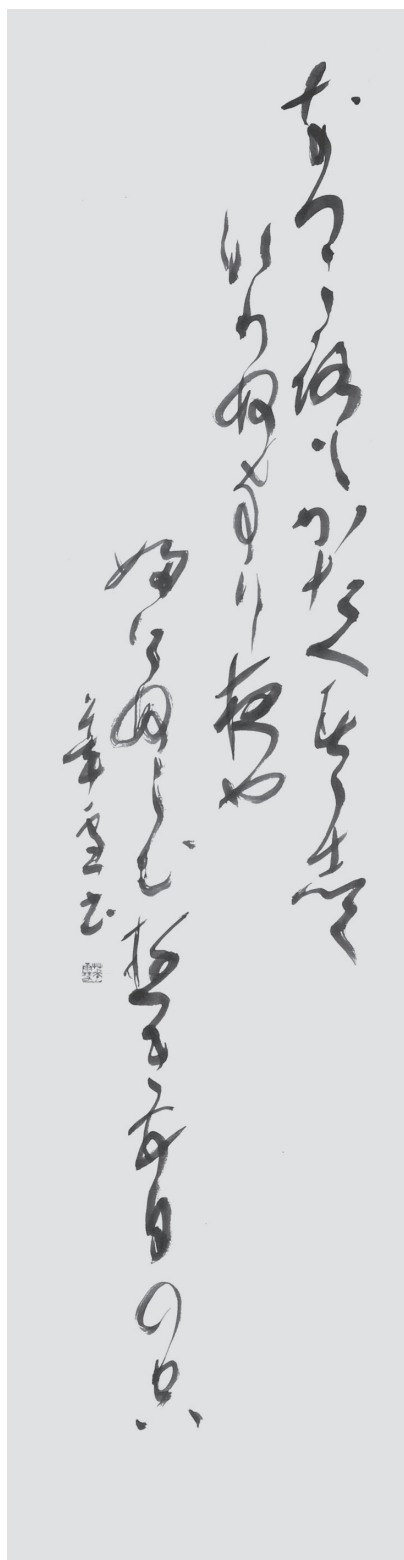
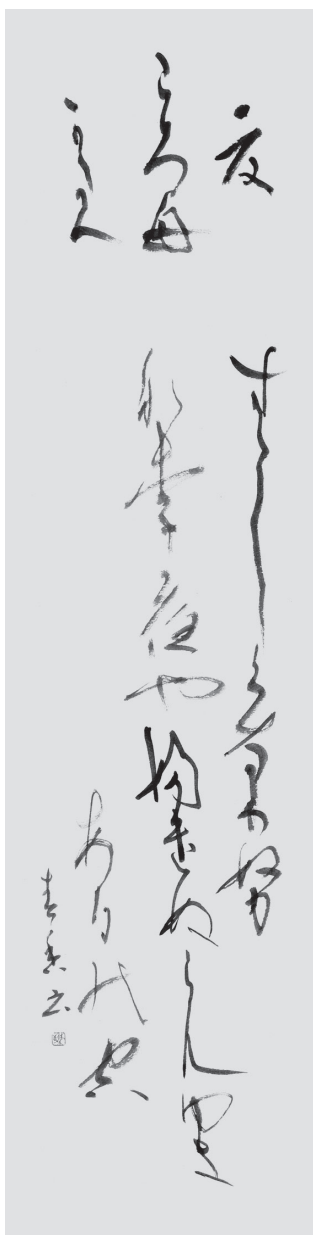
B

石原春香先生書

夏ころ母可多へすゞしくなりぬ奈利努那李夜や婦遣ぬらんゆ支あ日能空

学び方

歌意：夏衣の片側が涼しくなったようだ。夜が更け、その刻になったのであろうか。夏と秋とが出会う今日の空よ。散らし方に変化をつけ、上下に分けて書きました。潤筆と渴筆のバランスによく留意して構成してみて下さい。



予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

白雲に羽うちかはしとぶ雁のかずさへ見ゆる秋のよの月(古今和歌集 よみ人しらず)

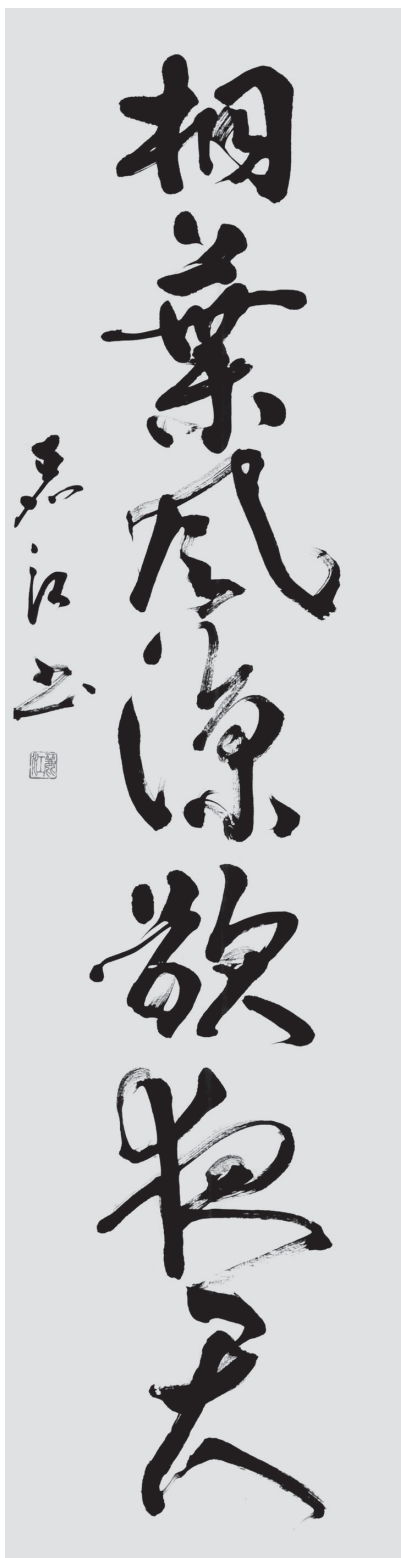
慈円―歌人、史論家。
一二二五年没、七十一才、
藤原忠通の六男。
天台座主。大僧正となり、歌をもつて、後鳥羽上皇に愛せられた。歌は「千載和歌集」以下に多く採られ、家集「拾玉集」は六家集の一つに数えられる。
「愚管抄」等の著がある。
「新古今和歌集」には西行(九四首)に次ぐ九二首が採られた。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考

吉岡麗江先生書

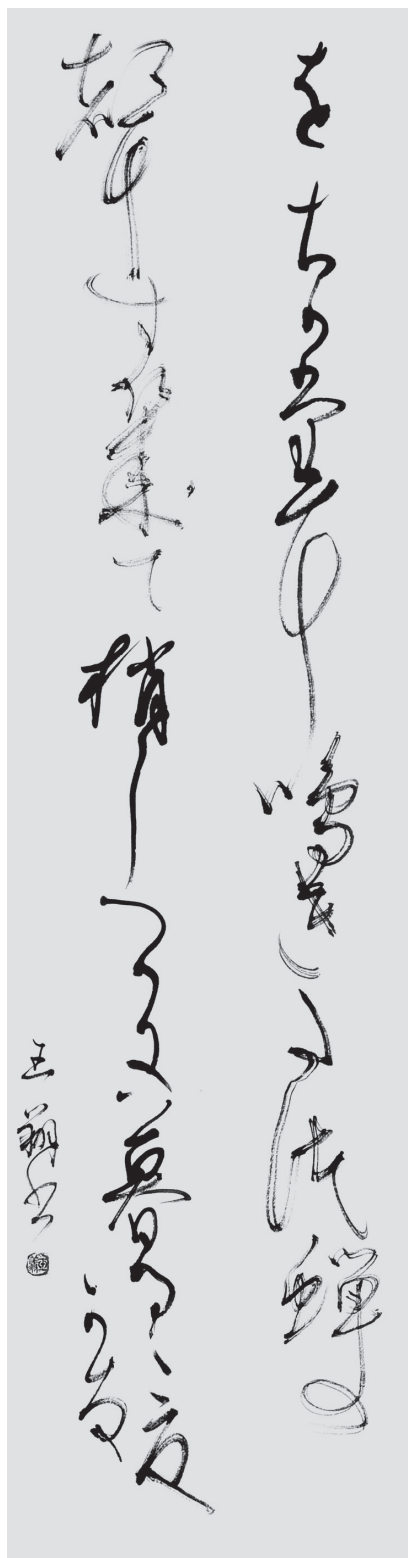
桐葉風涼欲夜天（白樂天）
桐葉風は涼し夜ならんと欲する天。



訳：桐の葉はさらさらと風涼しく夜になろうとしている。

福田玉翔先生書

遠方に鳴き立つ蟬の声過ぎて梢静かに暮るる夏かな（正徹）
をち可堂耳鳴き多徒蟬の聲す幾て梢しつ可尔暮るる夏可奈



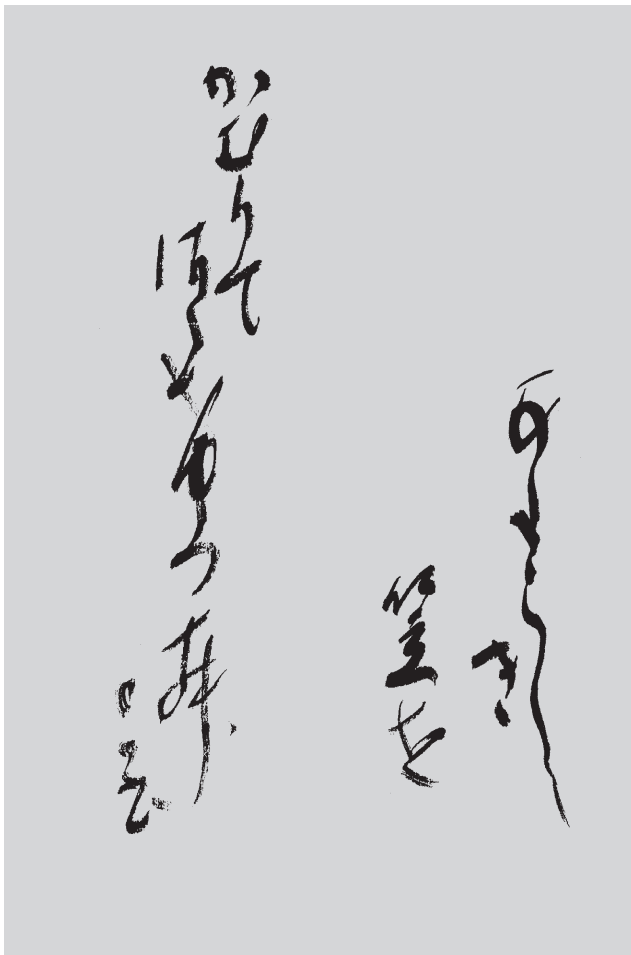
歌意：遠くの方で、いっせいに鳴きたてていた蟬の声もいつか聞えなくなり、木々の梢も静かになって、静かに暮れていく夏であることだ。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (八月二十二日締切)

予告 昇試第三部かな (九月二十二日締切)

花すすき寺あればこそ鐘が鳴る (来山)



平岡華雪先生書

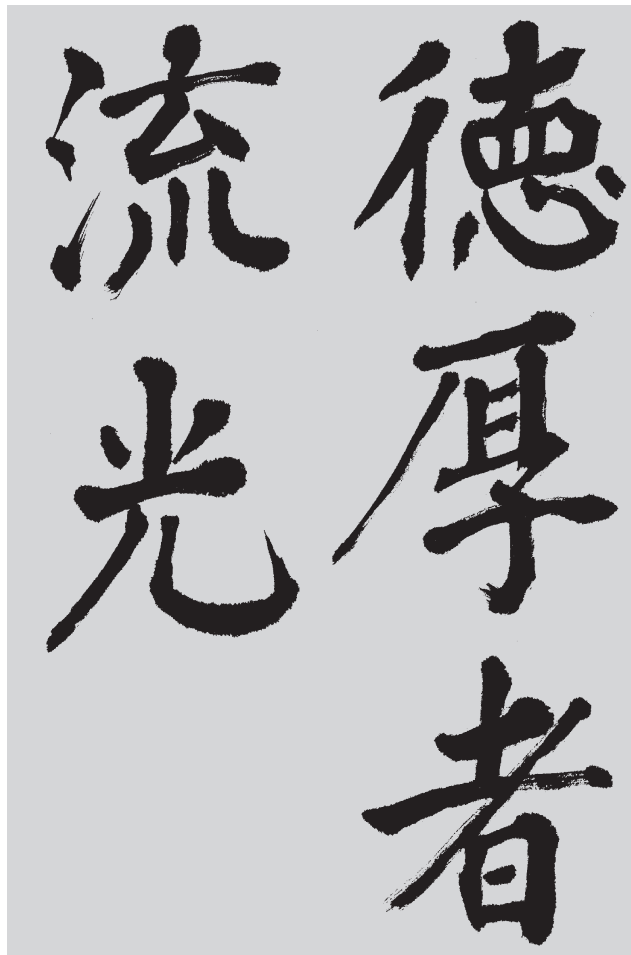
新しき笠をかむりてさゝげ摘む (素十)
あ多らしき笠をかむりて佐々希つ舞

〈基礎的習熟を〉
右群の「き」は「あ多らし」に寄せ、さらに「笠を」間をとり一群を構成。墨継ぎは、「佐」字が効果的。「希」「舞」の右上転回の手法と縦画の伸展用筆を中心に、線の鍛錬を。

漢字部課題参考 (八月二十二日締切)

平岡華雪先生書

徳厚き者は光を流す (穀梁)
訳：徳あるものは自然にその人物が世に知られる。



予告 昇試第三部漢字 (九月二十二日締切)

風笛荷花外 (施閏章)

〈左払いの勁さ〉

「左払い」は画の長短、太細、方向の差はあるが、その用筆は左下へ引く逆筆的で勁い線が表出。この手法をよく理解すること。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙 (3 × 4 cm位) に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

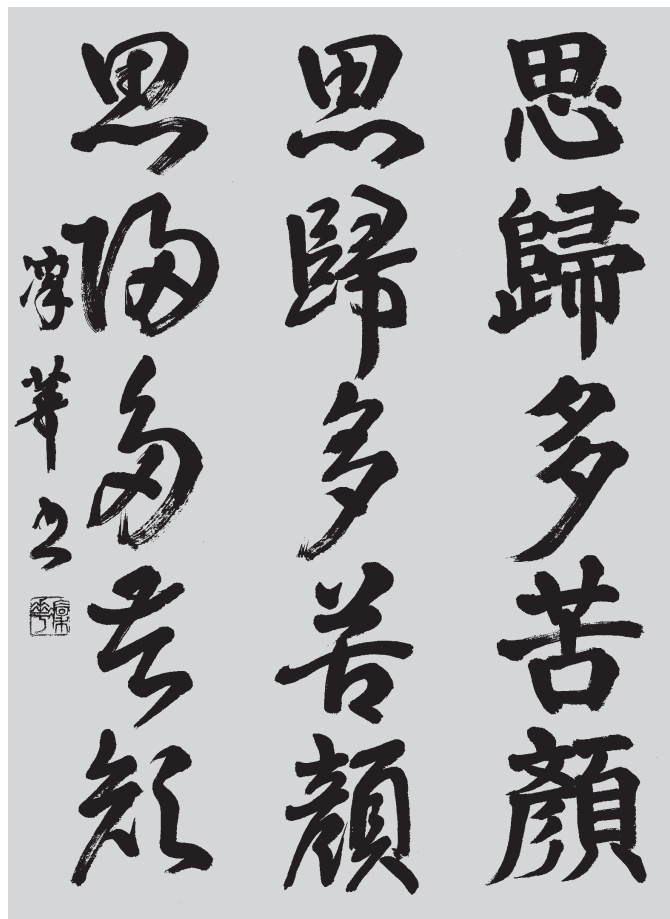
①出品部門 (例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考（八月二十二日締切）

漢字かな交じりの書課題参考（八月二十二日締切）

予告 昇試第二部漢字（九月二十二日締切）

歎息未應閑（李白）



訳…故郷へ帰りたいさに、その顔は苦しげにゆがむ。

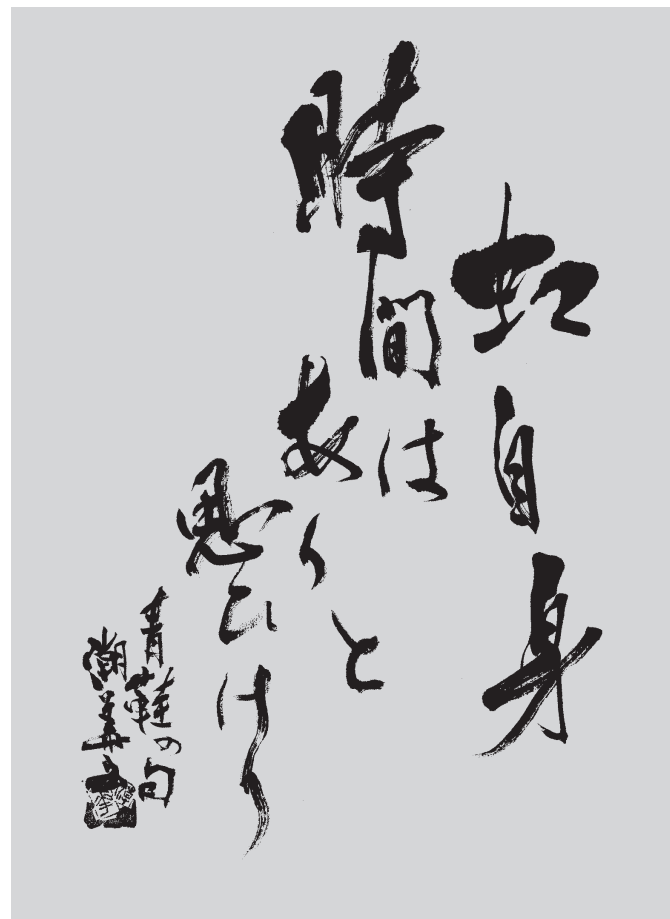
(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

勝間凜華先生書

思歸多苦顔（李白）

帰るを思おもいて苦く顔がん多おほし

阿部青鞋（一九一四～一九八九）俳人、詩人。
二十代に新興俳句運動に参加、戦中は古俳諧研究に没頭し、終戦後受洗して、牧師になった。
この句は、虹という「虚」の現象が、それ自身で時を思考する。「虹自身」を大きく、タツパリと墨を入れ、「時間」を中央に配し、「間」と「は」の間から「ありと」をリズムミカルに斜めに書き込む。「思ひけり」は前三行を受け止めるように左傾斜で書き添わせる。落款は、前四行を支えるために、左下の三角空間に収める。筆は羊毛の長鋒筆を使用。



(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

水貝潮華先生書

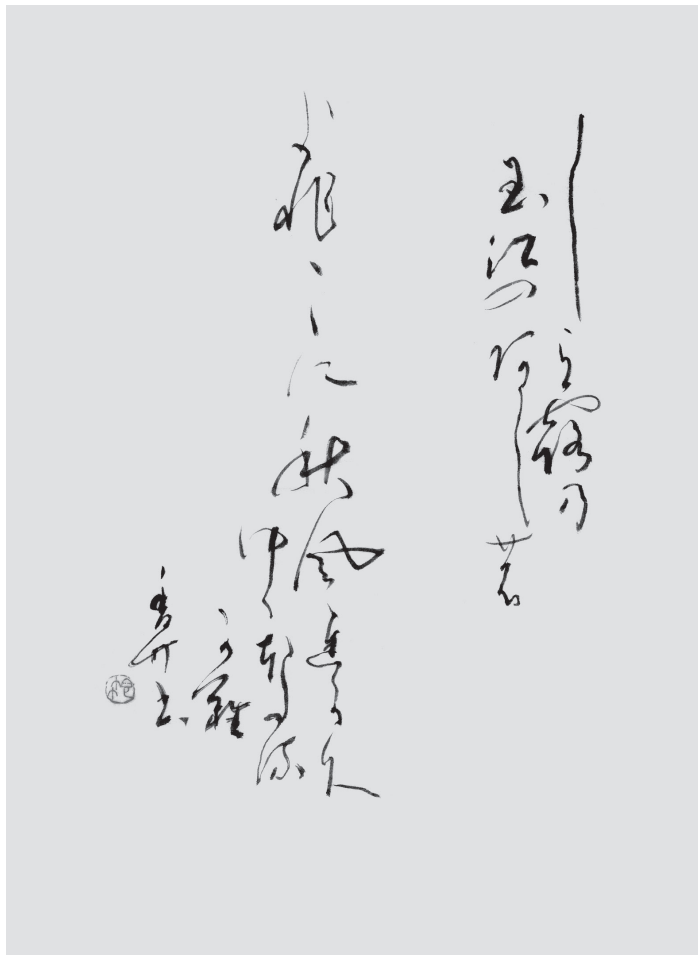
虹自身時間ありと思ひけり

（阿部青鞋）

随 意 部 参 考

予告昇試第二部かな（九月二十二日締切）

日づらしの「哀」する山の松かげに岩間をくぐる水のすししと

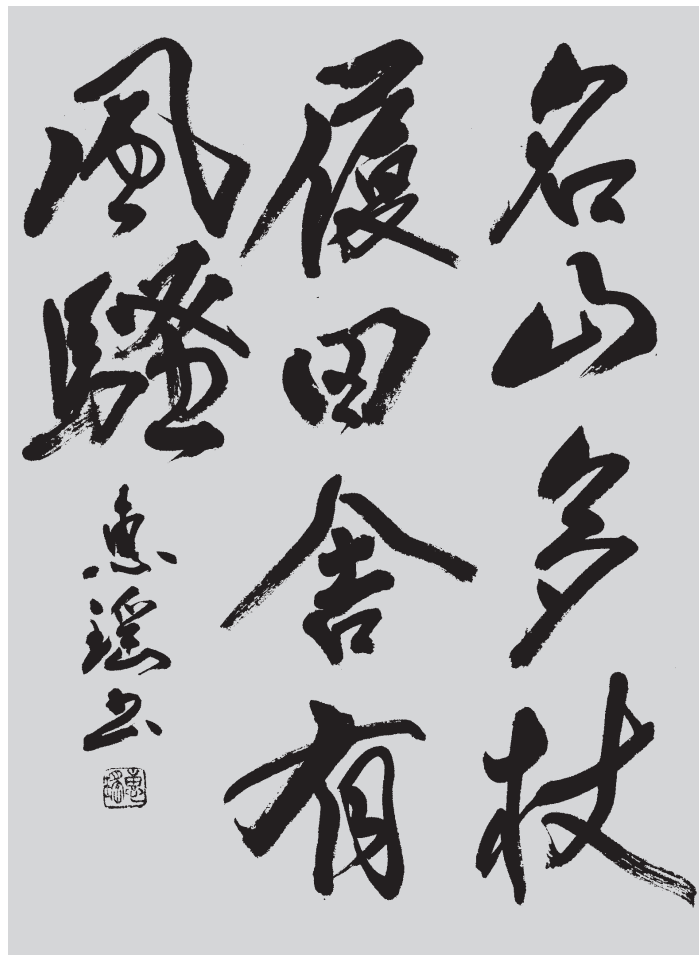


歌意…白露の玉を置く玉江の芦のあたりに、宵々に秋風の吹くことも近くなり、鶯の飛んでいることよ。

青柳香竹先生書

しら露の玉江のあし^{つゆ たまえ}のよひよひに秋風^{あきかぜ}ちかくゆく螢^{ほたる}かな（道助法親王）
しら露乃玉江の阿し農よ非々^{ふふ}に秋風遅可久ゆく本多流可難

訳：名高い山には常に多くの人が絶えぬが、郊外又は郊外の家には風流韻事のことが多い。



吉濱恵瑶先生書

名山多杖履^{めいざんじょうりおお} 田舎有風騷^{でんしゃふうそうあ}（魏商介）
名山杖履^{めいざんじょうりおお}多く、田舎風騷^{でんしゃふうそうあ}有り。

硬筆部課題参考

(八月二十二日締切)

生駒紅泉先生書

稲畑曄穂先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

梧桐の葉の朝夕風に揺らぐのが、
肌に応えるように眼をひやひやと
揺す振った。

夏と秋のあいだ、というのは、
晩夏であり、初秋である。
この季節の海岸所は、ある
種のわびしさにみちている。

課題1 (初段以上)

夏と秋のあいだ、というのは、晩夏であり初秋である。この季節の海岸町は、ある種のわびしさにみちている。

『夏と秋のあいだ』立原正秋

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

梧桐の葉の朝夕風に揺らぐのが、肌に応えるように眼をひやひやと揺す振った。

『行人』夏目漱石